

発行：習志野販売株式会社
〒275-0016
千葉県習志野市津田沼 5-11-10 吉田ビル3F
TEL 047-454-2355 FAX 047-454-2357
e-mail: asa-ns@seaple-n.icc.ne.jp

あさまる通信



一言「夏休みもこの時期になると疲れが出ますから、十分休養をとってください。」(編集k・t)

時の言葉

【防災の日】
大正十二年の9月1日、関東大震災(マグニチュード7)によって、死者・行方不明者14万人、家屋損壊57万戸、被害総額は60億円という大規模な震災にみまわれた日です。
「この大災害を忘れることなく、不測の事態に備えを」と、昭和三十五年に創設された日です。



【十五夜・彼岸の入り】

「兎 兎 何見て跳ねる 十五夜お月さん 見て跳ねる」とうたわれ、月では昔、兎が餅つきをしていると思われていた場所でした。

【秋分の日】

二十四節気のひとつです。陰暦の八月の中で、白露(9月8日)の十五日後、つまり9月23日が秋分の日にあたります。秋のお彼岸のお中日で、昼と夜の長さがちょうど同じになる日です。

【食の歳事記】

「秋鯖は嫁に食わずな」といいます。この時期産卵を終えて、たっぷり食べて脂ののった鯖は、「嫁に食べさせるのが惜しいほどおいしい」という事からです。この時期はマサバを味わいたいです。血合肉には鉄やビタミンBがたっぷり含まれ、栄養価が高く、成人病を予防するEPA(エイコサペンタエン酸)を多く含んでいます。



【無花果(イチジク)】

夏果は6月から7月、秋果は8月から10月に出来る。イチジクは薬用効果として整腸作用、血圧降下、健胃、滋養、消化の促進などに効き目があり、二日酔いにも効き目があります。

【習志野公園散歩】

【谷津2丁目児童遊園】



京成線の線路脇にある、小さな児童公園。公園の中央にはピエロの遊具がそびえ立つ、通称「ピエロ公園」と呼ばれている。木陰が多く閑静な住宅街の中にある緑豊かな公園です。

【夏バテにはー】

ニラの葉にはネギ類と同じ硫化アリルが含まれるので、特有のにおいがある。中国料理では広く利用され、油を使った炒め物にかかせない野菜となっている。その他、卵とじ、鍋(なべ)料理、雑炊、あえ物などにも使われる。生のまま薬味に使われることは少ない。ニラを栽培して食べているのはアジアだけで、ヨーロッパやアメリカでは利用されていない。ニラの種子を採集し、日干しにしたものを種子(きょうじ)とよび、下痢止めなどの漢方薬に使われます。夏バテで弱った胃腸にニラ料理などいかがでしょうか。



あさまる info

9月29日(土) 谷津小学校 編集後記

今年の夏は記録的な猛暑、そして甲子園では習志野高校が大活躍と暑い暑い夏でした。この第二号の紙面も二転三転し、なかなかまとまらなかったですが無事発行するに至りました。(k・k)



【甲子園の軌跡】

8月11日

第三試合対尽誠学園戦

西日本の強豪・尽誠学園(香川)との試合は、残塁14と好機にあと1本が出ない苦しい展開だったが、エース佐々木の力投と左翼手中山の好返球など、鍛え抜かれた守備で14年ぶり出場の初戦を飾った。



【写真】5回表習志野1死二塁、梶岡は先制の右前安打を放つ。

習志野 000 021 000 3
尽誠学園 000 001 000 1
8月15日

第四試合対明德義塾戦
強打の明德義塾(高知)との2回戦は、佐々木の力投に内外野が堅い守備でこたえた試合だった。捕手白鳥の本塁打で挙げた2点を、最終回の外野守備で見せた、3連続の超美

技で劇的な勝利を上げた。



【写真】4回裏習志野2死一塁、白鳥は左越え本塁打を放ち生還。

明德義塾 000 001 000 1
習志野 000 200 000 2
8月18日

第三試合対明豊戦
先制して守りきる。強豪の尽誠学園、明德義塾を振り切った勝ちパターンがこの試合は違った。勝負どころで内野陣の守備が乱れ、エース佐々木も本来の打たせて取る投球が出来なかった。打線もあと一本が出ず、8強入りはならなかった。



【写真】1回表習志野2死一塁、吉野は中越え三塁打を放つ。

習志野 200 111 000 5
明豊 004 020 000 6

第83回全国高校野球選手権大会は、今年の習志野に大きな旋風と感動をもたらしてくれました。14年ぶりの出場で3回目の全国制覇を目指した習志野ナインのプレーは、私たち習志野市民を熱くさせてくれました。ご声援ありがとうございました。(編集k・k)

つだぬま 盆踊り大会

日 時 8月25日・26日
午 後 7時~9時30分
場 所 京成津田沼駅 駅前広場

●夏の嫌われ者と言えは「蚊」

「殺虫剤や蚊取り線香はにおいがきつく」という若い女性の間で、蚊を寄せ付けぬ観葉植物が人気になっている。その名もモスキートプランター。



嫌がる観葉植物

オーストラリア原産のフトモモ科の植物で、オーストラリアでは人が集まる戸外のバーベキュー会場やプールサイドなどに必ずと言ってよいほど植えられている。蚊が嫌う「シトロネラ」というオイル成分を多く含み、葉から発せられる香りで蚊を寄せ付けぬ。シトロネラはか

んきつ系。蚊には嫌われても人にはさわやかな香りだ。カップの湯に葉を浮かべると、ハーブティーとしても楽しむ。夏を中心に春から秋にかけて新芽が芽吹き、初夏には薄いピンク色のかわいい花も楽しめます。

【読者プレゼント】

蚊が嫌う観葉植物「モスキートプランター」を20鉢プレゼントします。ご希望の方は、上記発行元までハガキ、FAXにて申し込み下さい。希望者多数の場合には抽選の上お届けとなります。9月15日までの発送をもって発表にかえさせていただきます。